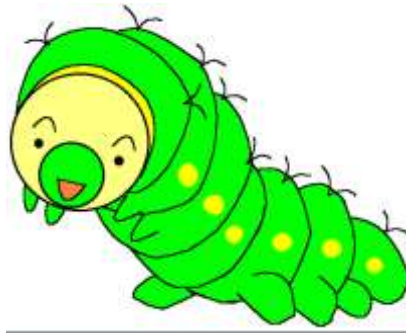


りょうぜん天蚕の会だより

【第 4 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会会長 柳沼 泰衛（電話・FAX 024-586-3004）

【会長あいさつ】

暦の上には春立ちながら、残寒の今日このごろ、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立したこの「りょうぜん天蚕の会」は、この度4年目を迎えました。これも偏に会員皆様の熱心な活動と関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、当会の活動趣旨は、霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進しようとするものです。



設立以来これまで伊達市、福島県県北地方振興局、県北農林事務所伊達農業普及所、県農業総合センター(旧農業試験場)等のご支援をいただき、天蚕繭生産の拡大と新たな繭製品開発に取り組むと共に、小学校等への教材提供、様々なグリーンツーリズム交流活動や地域ボランティア等を行ってきました。そして、3カ年間認定を受けた県単独事業「福島県地域づくり総合支援事業（地域づくりサポート事業）」は、大きな成果と共に実績報告を行ったところであります。

19年度は、6,900粒の繭を収穫し、全国初の「全国天蚕交流セミナー」を開催するとともに、更に全国初の「天蚕紬糸による布織物や和装装飾品」を完成させるなど、特筆すべき活動を実践しました。多数の新聞、テレビの取材報道により全国から大きな反響と注目を浴びたところであります。20年度はこの成果と実績を基に更なる前進を図るものであります。

全国初の天蚕セミナー開催さる

全国の飼育者、布織者、学識者等、霊山に集う

8月31日と翌9月1にわたり、全国初の天蚕セミナーが「りょうぜんこどもの村」と「中川集落センター」で開催された。全国から天蚕飼育者や天蚕布織者、野蚕に関心のある方120名参加した。南は愛媛県城川町、長野県穂高町、埼玉県秩父市、神奈川・東京・千葉・群馬県の関東地区、北は岩手県一戸町と山形県白鷹町の生産者等であった。が、福島県で長年飼育・繭生産に関わっている都路からの生産者がなかったことは残念であった。

31日は朝から大雨となり、屋外で予定していた「霊山太鼓」と「竹生島流棒術」のアトラクション披露は児童館に変更となった。珍しい郷土伝統芸能にやんやの拍手がわいた。

開会式には会長の挨拶の後、県北振興局長吉川氏の歓迎の挨拶、仁志田伊達市長が、かつて霊山町は全国最初の民間の養蚕伝習所開設の町であったことや、「掛田折り返し糸」が世界に輸出された養蚕の先駆的町であったことを紹介した。セミナーに入り、日本野蚕学会会長赤井弘氏は基調講演「天蚕の魅力と活用について」と題して、マイクを指し棒として熱演した。続いて、秩父の農業試験場の今氏は飼育指導者の立場、白鷹町の小松氏が織物業者の立場として、わが会の柳沼会長は、エゾノキヌヤナギという飼育樹木とこれまでの生産状況、並びに会の様々な活動として親子観察会、小学校の飼育体験鉢寄贈、グリーンツーリズム等の事例を発表した。パネルディスカッションに入り、貴重織物ではあるが、販売価格と販路の問題が参加者一同の課題であった。



翌1日は、中川地区の天蚕飼育ハウスの見学と飼育研修と天蚕繭コサージづくりを実施し、セミナー参加者の半数60名の参加が得られた。エゾノキヌヤナギを飼育樹木としているのは福島県のみを試みで管理法の質問が相次いだ。また、工芸品づくりの体験も天蚕の魅力を伝える上でこのような商品の開発も良いと好評であった。

参加者からは次年度も霊山町で開催してほしいとの要望しきりであった。また、天蚕の飼育と織物を長年苦勞してやってきたが、天蚕を知る人々との交流の時を得て、生涯の宝となったという言葉も頂いたことは主催者として嬉しい限りである。



「感謝の便り」全国から！！

全国天蚕交流セミナー終え、感激を新たに

全国初の天蚕セミナーの開催は関係者ばかりでなく、報道機関や多くの団体から注目され、大きな賞賛をいただきました。そして参加者から多くの感謝の便りが届きましたので紹介します。

①全国天蚕セミナーのご盛会おめでとうございました。先日は大変お世話になり感謝申し上げます。又、ご丁寧なお礼状まで頂戴し恐縮しております。会長様はじめ事務局をささえた会員スタッフの皆様のみごとな連携と熱意の成果だったと感服致しました。どうか今後とも交流のなかでご指導賜りますようお願い申し上げます。

お陰様で台風9号の被害は当町ではありませんでした。今秋のアクセサリ講習会にはどうかよろしくお願いいたします。皆楽しみにしてお待ちしております。【山形県白鷹町 小松 様】

②初秋の趣を感じる今日この頃でございます。先日のセミナーでは大変お世話になりました。本当に有り難うございました。皆様お疲れが出ておりませんか。初心者の方にはとても参考になることばかりで出席させて頂き感謝しております。

帰って次の日、帯の展示会（青森）に出かけたり来客の応対といろいろあり、お礼が遅くなりまして申し訳ございませんでした。母から呉々も宜しくとの事でございます。皆様ご自愛下さいましてご活躍下さいますようお願い申し上げます。【岩手県一戸町 進 様】

③この度は大変お世話になりまして心よりお礼申し上げます。すばらしい会に出席させていただき、先生はじめ「りょうぜん天蚕の会」の皆様のパワーと参加者に多くのことを得させたいとのご配慮とおやさしさに感服するばかりか、その上事務局長様として会の運営全ての指揮をなさる大変ご多用の中、私個人の願いをお聞き届け下さり何とお礼を申してよいかわかりません。

何から何までお世話下さり、お陰様で「羽山信仰」について読んだだけではわからないことよく理解できました。ありがとうございました。【東京都文京区 佐野 様】

④先日の全国天蚕交流セミナーでは大変お世話になりました。お陰様で大変興味深いお話を盛り沢山に聞かせて頂き、とても得るところの多い二日間を過ごさせて頂きました。柳沼会長、八島事務長をはじめ会の皆様の熱意が隅々まで感じられ、ちょうど天蚕や野蚕の布の肌合いの心地良さを満喫した感じです。

又、二日目の午後はわがままを言って霊山登山口まで車で送って頂きました。送って下さった方のお名前を何うのを忘れてしまいお礼を申し上げることが出来ません。よろしくお伝え下さい。山の上は小雨が降り続いておりましたので、霊山城址、護摩壇まで行って戻りましたが植生豊かな山には感激しました。また是非ゆっくり訪ねてみたいと思っています。

会の今後のご発展を祈っております。【神奈川県相模原市 小野田 様】

⑤朝夕はめっきり涼しくなりました。過日は「天蚕の会」事務局のお働き”すばらしい”の一言で大変満足し、感激致して帰って参りました。本当にお世話様になりました。また、天蚕繭の乾燥につきましても有り難く感謝いたしております。

翌日には畑に行き驚いてしまいましたことは、8月2日に山付けしたものが繭になっており、30日間での結繭は暑さの故かと変に納得してしまいました。また、色々お世話に相成りたくよろしくお願い致します。【浪江町 鈴木 様】

⑥先日は何かとお心遣いいただき、交流させていただきましたことに心から感謝申し上げます。帰町の際、会員が集い今後の活動について語り合うことにしました。「りょうぜん旋風」の熱が冷めないうちにと計画しています。遅々とした歩みになると思いますが、それでも、これまでの一寸先も見えない活動とは異なっており、知恵と熱意を寄せ合って進んでいきたいと考えております。【山形県白鷹町産業振興課 鈴木 様】

⑦会長、事務長、スタッフの皆様には準備から後始末まで大変ご苦労様でした。セミナー、交流会、視察体験と大変上手に執り行われたと思います。人的交流、天蚕加工製品、他県の情報等が霊山の地から発信されました。来賓の方々も大変喜んで感激しておりました。

【福島市 生沼 様】

野蚕学会機関誌より

全国天蚕交流セミナー終わる ……流通確立が大きな課題……

福島県「りょうぜん天蚕の会」主催の「全国天蚕交流セミナー」が、8月31日と9月1日、霊山こどもの村で開かれました。天蚕を飼育する方々が、現状を交流し今後の方向を探ろうとする試みは初めてのことで、大いに注目されました。

参加された飼育グループは、りょうぜん天蚕の会のほか岩手県一戸町、山形県白鷹町、群馬県中条町、長野県安曇野市（穂高）、埼玉県秩父市、愛媛県西予市（城川町）などでした。

1日目は、基調講演（赤井弘・国際野蚕学会会長＝野蚕の中でひとときわ輝く天蚕、その魅力と活用）と事例報告、パネルディスカッションで、貴重な事例や意見が相次ぎました。各地の飼育グループの現状が理解でき、展望が開けたような気がしました。

会場から、「天蚕は蚕業として成り立つと考えているか」と、鋭い質問がありました。それぞれのグループの報告者が答えていましたが、みなさん大いに期待を持っていることが分かりました。

※大きな問題は、流通システムを確立すること（共通した認識でした）。

※個人の取り組みも産業の一環として考えるなら十分成り立つ。

※地域活性化の視点を忘れずに位置づけること。

※あきらめていたが「交流会」があるという話題からグループの名称を「白鷹天蚕の会」に改めて前向きに取り組むことになった（白鷹町）。

※天蚕繭1粒80円の現状から1粒50円ぐらいにできないか飼育の方法など仕組みを研究している。

※現在、一反歩当たりの経済効果が米作りよりも良いのではないかとと思われる。

以上は、意見交流発言などから注目される意見を拾い出した内容です。

感想として

①天蚕にこだわらず野蚕（ワイルドシルク）全般の特徴と動向を理解して取り組んで欲しい。

②シルク全般が、工業製品ではなく農業製品であり、そうした生産販売の仕組みを再考することが重要であろう。

③今回、広島市可部のグループや山梨県市川三郎グループまたは大分県、岐阜県の方々が来られなかったのが残念でした。

来年も開催されることでしょうか、いっそう充実した交流会になることを期待しています。



試作品に対する賞賛の便り

ショール素敵ですね。短期間に素晴らしいことですね。すごいです。
登録有形民俗文化財としても残念です。朝日新聞で見まして「よかった」と思い電話しました。
絶対繭倉庫の保存、そして用具の展示はどこでも行うでしょうから、実際に蚕飼育、糸取りなど
行って下さりますよう。また、参加もさせていただけたらありがたいです。

【東京都文京区 佐野 様】



ハウスネット撤収作業実施

12月9日（日）午後1時より飼育ハウスのネット撤収作業を行った。生憎行事の重なった会員が多く、参加者9人のみの作業となったが、斎藤行応副会長が一部を既に撤収していたハウスがあったので早めの終了となった。ハウス撤収作業中に繭が取り残されたものが多数見つかった。収穫作業の折、二度三度と確認したのであるが、葉の下等に営繭したものの発見を見逃したものと思われる。収穫時には、更なる確認作業が必要であろう。

また、2名の女性会員は会長とともに紡ぎ作業を行い、紬糸は天蚕布の横糸に用いられた。



白鷹町へ撚糸研修と交流会を行う

副町長も参加。白鷹天蚕の会員らと盛会に

12月13（木）、14（金）の両日、山形県白鷹町への撚糸研修を実施した。それに先立って、天蚕の会で数回実施してきたハイブリット糸を県ハイテクプラザで、繰糸を1メートル200回転の三本撚りとした。この糸は縦糸に使用できる見通しが出来たが、紡いだ糸を横糸にするためには手動撚糸する必要があるとの研修であった。

天蚕布を織っている白鷹町の小松紀夫氏に研修依頼したところ、長井市の撚糸工場に伺うこととなった。また、立地条件が我が町と同様なので、中での飼育状況やセミナー参加した白鷹町のメンバーとの交流も待たれていた。

朝から小雪降る中、初日は、白鷹町の古刹「瑞龍院」、「深山観音堂」や「薬師堂の古代桜の古木」を見学した。夜は、白鷹天蚕の会員の他、町地域振興課の職員5名と副町長の参加を得て大いに交流を深めた。特に、川辺さんの繭にまつわる「昔ばなし」、天蚕音頭を白鷹町風にアレンジして踊りの披露には拍手が鳴りやまなかった。終わりには全員一緒に踊りと盛り上がり、7時間に及ぶ交流となった。

二日目、天蚕繭アクセサリーとコサージュ工芸品づくりには、わが会の女性軍が講師役となり製作した。白鷹天蚕の会員の他、地域の婦人14人が参加し工芸品づくりに挑戦した。また、長井市の撚糸工場では、撚糸の工程の多様さに驚くと共に、撚糸機械の操作に相当な熟練と相当量の天蚕糸が求められることを知った。わが会のわずかなハイブリット糸での機織りは自前で紬織りをする他ないと持ち帰った次第である。



天蚕布ついに完成！！

瓜田博士、出来映えに絶賛。織り姫八島恭子さん感涙。

天蚕の会結成以来、念願であった織物がついに現実のものとなりました。

1月12日に開催された「地域づくりサポート事業活動発表会」（福島市 エルティ）で、柳沼会長の成果報告とともに初めて公開。参集者の驚感をいただきました。

会員全員3年間の努力の結晶です。おいに喜びを恭受しましょう。

八島恭子さ～ん。寝ずの番での機織りご苦労様でした。（主人利幸事務長は脇で絶大なサポート）

【福島民友 平成20年1月12日(土) 全県版の記事】

(柳沼会長と八島恭子さん)



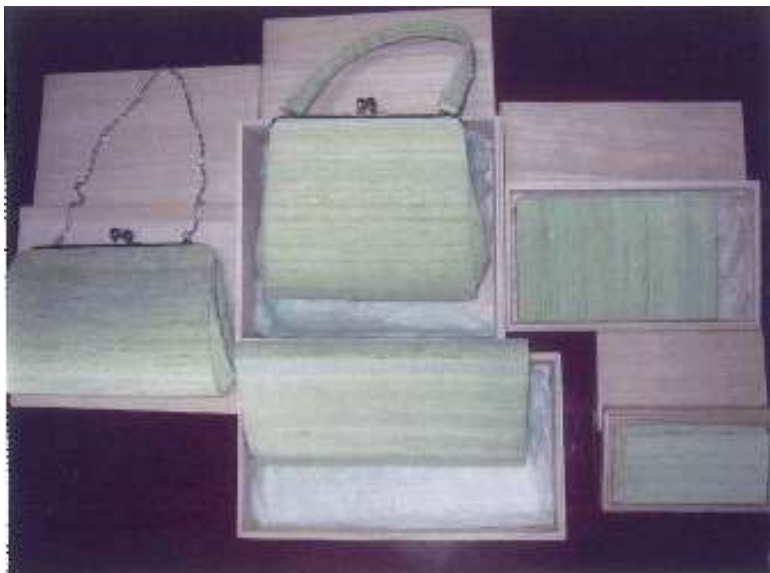
柳沼会長サポート事業の成果発表

柳泰節に会場笑いと感動！ 天蚕布に驚嘆！

平成19年度、県地域づくり総合支援事業の補助を受けていた団体による成果発表会は、1月12日、福島市のウェディングエルティで行われた。今年度補助を受けた中から4団体の真面目な発表の中で、柳沼会長は菅野公氏の投影したDVDをユーモアを交えて説明し、聴衆の笑いと感動を誘った。

会場入口には12月末に完成した天蚕布のショールや、天蚕織布で製作したハンドバック、懐紙入れ等、輝くばかりの製品に「素晴らしい萌黄色ね」、「繊維のダイヤモンドは初めて」という感嘆の声が挙がっていた。

成果発表会后、同会場で新年会を開催した。会員14名が参加し、天蚕布の完成を祝うと共に一人一人の感想を述べた。多くの会員は今までの労をねぎらい、更なる成果に向けて努力しようという思いが一杯で、最後は、恒例の天蚕音頭で締めくくった。



天蚕繭工芸品の展示会を行う

11月18日～12月2日まで、福島市パセオ通り「岡崎陶器店」ミニ・ギャラリーにおいて当会会員が製作した天蚕繭を利用したブローチ、ネックレス、イヤリング、コサージュ等50点を展示した。

また、来場者に天蚕繭のコサージュ作りの体験教室を実施した。独特の色合いを活かしたぬくもりのある工芸品に「心を和ませる」の評が多く聞かれた。次回には是非天蚕布の展示をして欲しいとの要望もあった。



会員の活動スナップ



